

■ 主な行事予定

- 7月7日(木) 来 日
7月8日(金) 16:00 関市役所訪問 副市長表敬訪問
7月11日(月)～7月15日(金) 大学での講義(中部学院大学)
7月12日(火) 16:00 岐阜県知事訪問
7月16日(土) 9:00～終日 白川郷見学
7月18日(月) 介護施設での研修スタート
7月19日(火) 13:30～15:00 関高等学校生徒との交流会(関高校)
7月20日(水) 病院(中濃厚生病院、関中央病院)での研修スタート
7月22日(金) JICA 中部訪問
8月3日(水) 13:20～関市内観光と市民との交流会 小瀬鶴飼体験
8月3日(水)～8月5日(金) 研修のまとめとディスカッション(中部学院大学)
8月5日(金) 15:00～ 成果発表会(中部学院大学)
8月8日(月) 帰 国

■ 研修施設

- 特別養護老人ホーム あかつき(関市)
特別養護老人ホーム 大洞岐協苑(岐阜市)
特別養護老人ホーム ほほえみ福寿(関市)
介護老人保健施設 太陽苑(関市)
病 院 関中央病院(関市)
病 院 中濃厚生病院(関市)

【趣旨・ねらい】

この度、ベトナムで10カ月間の研修を受講して終了した受講生25名(うち通訳1名)が来日し、1カ月間の滞在中、介護福祉施設に寝泊まりしながら、大学での講義、介護福祉施設や病院での研修を受けます。日本での研修を受けた受講者は、ベトナムで「老年ケア・キーパーソン」となり、職場の同僚や患者の家族に日本式ケアの理念や技術を伝達し、同国でもまもなく迎えることが予想される高齢化社会において、高齢患者やその家族のQOL(Quality Of Life)を高めることを最終目標としています。

【経緯】

中部学院大学は、1989年に短期大学部に中部地区で最も早く国の認可を受けて介護福祉士養成課程を設け、2,000名を超える卒業生を介護の現場に輩出してきた伝統校です。そのノウハウを生かし国際貢献に寄与するため、関市と協力し、JICA 草の根技術協力事業に取り組んできました。2015年（平成27年）9月からは、カウンターパートであるベトナムのダナン医薬技術大学で、看護職を対象に日本式老年ケア講義と日本語講座を開講し、27名の看護師資格者が受講しています。

- 2014年5月 申請団体＝関市 実施団体＝中部学院大学として
JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）に申請
- 8月 JICA から内定通知 MOU（覚書）締結に向けて活動を始める
- 10月 カウンターパートであるダナン医薬技術大学学長らが来学
関市長表敬訪問
- 2015年3月 MOU 締結 JICA と業務委託契約を締結

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学教育研究支援部研究支援課（担当：浅野・稲吉）

TEL:0575-24-2238（関キャンパス）

【JICA草の根技術協力事業ダナン市の介護職を対象にした

老年ケア・キーパーソン養成事業】

1. 対象国 ベトナム社会主義共和国

2. 事業名 ダナン市の看護職を対象にした老年ケア・キーパーソン養成事業

3. 事業の背景と必要性

今後、ベトナムでは、経済の発展、生活様式の変化、医療技術の向上によって、高齢化が進み、生活習慣病等の慢性疾患や精神疾患等の増加が見込まれる。これに伴って、高齢者に対する老年ケア（老年看護・介護の知識と技術）の取組みが求められる。日本では、看護技術の向上に加え介護の専門性を確立することで、生活モデルによる障害の軽減と重度化の予防を図ってきた。日本の老年ケアをベトナムに移転することで、病院需要が急増するベトナムで、病院と在宅との機能分化を促し患者のQOL(Quality Of Life)を向上することができる。関市では、市内の病院、介護施設、大学が連携して、看護・介護職員の資質向上を図ってきた実績がある。また、刃物の生産技術を生かした、介護機器・医療機器をベトナムに紹介することができる。

4. 事業の目的

日本の老年ケア（老年看護・介護）の理念とスキルを移転し、看護の質を高め、ベトナム国における「高齢者患者の寝かせきり」「認知症高齢者の拘束」などの介護問題の解決に資する。

5. 対象地域 ダナン市

6. 受益者層

ダナン市内の病院で働く看護従事者、もしくは看護資格者 直接裨益者：約300名
間接裨益者：約3,000名

7. 期待される成果：

日本の老年ケアを習得した「老年ケア・キーパーソン」（以下 キーパーソン）が養成され、キーパーソンの活躍によって看護の質が向上し、入院患者のQOLが改善される。

8. 各活動

■ 中部学院大学の役割

- 1) 日本語講師と老年ケア講師を現地に派遣し、約9カ月にわたり日本語教育及び老年ケアの養成研修を実施する。
- 2) 中部学院大学から介護・看護教員を派遣し老年ケアの特別講義を行う。
- 3) 日本から派遣した老年ケア教員がケアセンターにおいて老年ケア実践の普及を図る。

■ 日本で受け入れた研修員の活動

- 1) ダナン医薬技術大学の看護教員を日本に招へいし、中部学院大学ならびに関市内の高齢者施設で研修の機会を提供する。
- 2) 関市招へい研修生20人に対して6週間（中部学院大学2週間、高齢者施設4週間）にわたり研修を実施する。本学では技術実習、高齢者施設では現場実習を行う。

■ ダナン医薬技術大学の役割

- 1) ダナン医薬技術大学の中に事務所を設け、プロジェクトスタッフ（現地調整員1名、研修助手1名）が活動することへの協力。
- 2) ベトナム保健省への連絡と報告。
- 3) ダナン医薬技術大学の看護教員を日本へ派遣し研修を受けさせる。
- 4) キーパーソン養成研修に必要な教室と設備の使用を許可する。
- 5) ダナン市内の病院や医療施設に、本事業の趣旨を説明し研修生の募集に協力する。
- 6) 関市招へい研修生の出国手続きに協力する。
- 7) ケアセンターの立ち上げに協力し、キーパーソンによる継続学習と実践を支援する。
- 8) キーパーソンによる伝達講習をサポートする。
- 9) 活動の成果をまとめる作業に協力する。
- 10) 研修のために使用する資機材の調達及び購入にかかる手配に協力し、本学と共同で管理をする。

9. 財源

本事業を推進するための活動資金は、JICAの規定により中部学院大学が負担する。

10. 実施期間 2015年4月 ～ 2017年 3月

11. 実施機関（日本側） 中部学院大学 （ベトナム側） ダナン医薬技術大学